

言語の領域における

情操陶冶



村石京子

△1V

幼稚園教育指導書『言語編』に、「幼児期における言語指導の重要性」として、

- (1) 話す力・聞く力を身につける。
 - (2) ことばを通して考える態度を育てる。
 - (3) ことばを通して情緒を伸ばす。
 - (4) ことばを通して集団生活に適應する。
 - (5) ことばを通して豊かな人間性をつちかう。
- という五項目があげられている。(P・2～P・4)

言語の領域における情操陶冶の問題は、主としてこのうちの(3)の

項目に含まれる。そして幼年時代においては、情操というとすぐ童話と結びつけて考えがちなほどに、童話を聞いたり絵本を見たりする活動の中に情操陶冶につながる素地となるものが多く含まれているのである。子どもによいお話をきかせたいということは広く世の中で言われ続けていることであるが、この気持はよい話をきくことによって幼年期の情操を培かっていきたいとねがう気持なのであり、童話というものが幼児の情操陶冶に関してどのように重要であるかはいまでもないけれど、それが幼稚園の中において幼児に与えられる機会は、それを方法的にみると次のように種々あげられてくる。教師からお話をきく・テレビでみる・ラジオで聞く・スライドでみる・紙芝居でみる・ペープサートでみる・人形芝居でみる・劇あそびでみる・絵本でみる・その他となってくる。これらは今、幼児の側からみた受動的な書き方をしたが、さらにこの中のいくつかは幼児自身の経験と成長によって、保育の場において能動的なものにすることができるであろう。こうみてくると、童話によって情操陶冶をすることが、幼児の生活ではかなり大きな比重をもつてしめられていることになづけてくる。

しかし、さらに考え方を展開して広く言語の領域をみわたしてみると、かならずしも童話・絵本のみはその問題をかきすることは適当でないとも思われる。

△2V

幼児の情操陶冶にたいする言語の領域からの参身のしかたを考え

るとき、気がかりなことは情操陶冶と一言でいっているけれど、その情操はどのような内容のものをさし、どの程度のものを用意するかという問題がある。また発達のみにても幼児期はたして情操陶冶をなしうる時期かどうかという疑問もあるし、情操陶冶以前の段階であるという解釈もあり、これに関しては十人十色の受けとめ方があるので、これにははっきりと定義していくことはこの際はさけないと思う。

なぜなら先頃、幼児と情操陶冶という面について研究討議を行なった際も、これは割りきった結論はついに出来なかったのであるし、またこのようなテーマは当然そうであることも考えられるし、さらにまた、言語の指導は情操を言語を通して陶冶することが主ならぬでなく、もっと多面的な内容をもつものであり、そしてむしろ言語を使う生活の中で、いくさぎぎきに情操への関心を高め、情操を身につけるしかたを学びとっていくことが大切だからである。

したがって、情操陶冶は幼児のもつ情操を望ましい方向に伸ばしていくことによつてはたされるというように考えて、言語の指導には幼児の情操をのほすために、どのような内容をもつ必要があるかというようにみていくのがよいのではないだろうか。次にその考え方を具体的にとりだしてみよう。

言語の領域において情操陶冶との結びつきは、つぎのような三つの面に分けて考えることができる。

○言語要素……幼児が使うことばづかい、ことばづかいにたい

する意識など

○言語活動……話をする、話を聞くことが生活の中とか、対人関係においてもつ必要性など。

○言語がさす内容……日常のできごと、童話・絵本の内容がもつテーマなど

これらの各々について簡単に説明を加えよう

1 言語要素と情操陶冶

言語要素とは幼児が使うことばづかいなどをさす場合、もともと情操陶冶と直接に結びつくことは少ないようであるけれども、たとえば幼児音や幼児語を話す子どもにも、情緒不安定な傾向がみえたり、過度の目えぐせがついて年令相応の発達がみられず、情緒面でも幼児的な傾向があったりする場合がある。また、乱暴なことは下品なことばづかいをする子どもはとかく行動の面でも、粗暴な攻撃的態度を示すことがある。このような場合をみてみると、「きたないことばを使うと心がきたなくなる」という情緒的表現は、ことばと情操との結びつきを巧みにいいあらわしていると思われてくる。

正しいことばづかい、美しいことばづかいをしようになることが言語の領域ではひとつの指導目標にあげられるが、美しいことばづかい、乱暴なことばづかいとはどのようなことをさすかという感覚を育てていくことは、情操陶冶の目標に沿って出てくることを考えられる。その点、教師が一方的にきたないことばはこういうものですよというような扱ひ方をすれば感性を養うという面は伸びず、

情緒陶冶とはおよそ縁のうすい形式的なものとなってしまうであろう、心したいことである

2 言語活動と情操陶冶

話をする、話を聞くという活動が行なわれるには、それができる人間関係がまえもってできていることが大切である。相手にむかって話す、相手の話を聞くことができるためには、互いに相手を尊重する関係が必要であるといわれている。話さない子ども、話せない子ども、人の話を聞かない子どもとして集団生活の中で問題をもっている子どもは、おおむね、ただその子どもが所属する集団の中で話をしないで困るといった、面的なことだけでなく、クラスの中でとかく人間関係がうまくいっていない場合が多いし、本人自身の性格・情操の上にもひびきあっている場合が多いからである

話をする、話を聞くさまざまな活動の中で、会話のはたらきは、話し手と聞き手が会話を通してお互いの心と心を結びつかせることであるといわれるように、話し手は相手が聞きたい話題をさがして親しみをまましていくことであるから、このような会話の指導は、人間関係を培かっていく上でどうしても愛・同情・協力・心の美しさなどの情操陶冶と関連しあってくる

また、実際場面においてどんな場合に話したり、聞いたりするところが大切であるかという心づかいもまた、情操陶冶と関係をもってくる。話し合いの場においても、人の話のじゃまをしないこと、人の話を尊重して聞くことなども大切な指導上の留意点になってい

る。ここに教師のつくり出す話し合いの場というものが、ただ話すことができるようになる、聞く態度ができてくるという言語の領域の指導目標のみを考えるのではなく、情操陶冶と結びつけて考えられなければならないのである

3 言語がさす内容

幼児が日常ふたんに目にふれた出来事をたがいに話しあったり、聞いたりすること、たとえばだれかが公園の花を折っていたこととか、道がわからないで困っていた人にお兄さんと二人で道を教えてあげたとか、その事実にもられた公德心は、その話を聞く幼児たちの情操に訴えるものを与えるであろう。もつともこうした出来事は直接経験として目で見ることでもできるが、誰かに語られることにより、また小グループでの話し合いを通して、話す子ども、聞く子どもにいつそう望ましい情操を伸ばしていくことができるであろう

この点については、日常の直接経験はとかくことがらが複雑であるし、情操陶冶の面と事実が結晶されていないので、幼児たちに見たなわれがちであるのにくらべて、童話や絵本にもられた話は具体的に提示されているという性質をもっている。また、これから直接経験するであろう出来事にたいする幼児たち自身の心の処しかたを話を通して具体的に教え、身につけさせることができるという特質ももっている

幼児が絵本をみたり、お話を聞いたりしているとき、しばしば物

語の中の登場人物や出来事を自分自身と同一化してしまうことがある。童話の世界に没入して、目を輝やかせて聞いている幼児の姿、どんなに多くの感銘や情緒をうけとめているのであろうか。また、劇あそびなどをすると、たとえば赤ずきんのあそびをする場合、赤ずきん、おかあさん、おばあさん、かりうど、その他にはなりたい子どもが大勢いるのに、悪役の狼にはなかなか手がいないうということも起る。これは、その劇中の登場人物と自分とを同一視してしまうことからおこるのであろう。このようなことも考え合わせると、教師は子どもの心の糧となっていくようなものを、楽しい内容を豊富にもりこんだお話を多くきかせたいと努力するとともに、その与える技術の面からもハラエティに富んだ方法をとり、子どもの心にしみこませていきたいとねがうのである。

△3V

ここで参考までに、幼児によく好まれている童話がどのような情操陶冶(性格形成)に役立つかという点について、簡単にいくつかの作品についてあたってみるとつぎのようになっている。

〔註 日本読書学会の調査による資料より抜粋した〕

従順 あかずきん

勤労 ありときりぎりす

自主自立 一寸ぼうし

動物愛 いなばの白うさぎ・つるのおんがえし

きょうだい愛 おいものきょうだい・三匹の小ぶた

努力 うさぎとかめ

協力 おおかみと七匹のこやぎ・プレーメンのおんがくたい

生命尊重 おやゆび姫・白雪姫

利己 かもとりごんべえ

健康 きんたろう

ユーモア 金のがちょう・ちびくろさんぼ

感謝 こびとくつや

友情 さるかに合戦

親切 三匹のくま・シンテララ姫

勇気 ジャックと豆の木・ピノキオ・ヘンゼルとグレーテル

公德 つるときつね

虚栄 はだかの王さま

もちろん、これらは作品だけについて、情操陶冶に関連する項目が単純にとりあげられたものであるから、これらが幼児にどのような受けとめられるかという考察の余地があるし、またこれ以外にあたえられる要素もじゅうぶんに考えられることはいうまでもないことである。

△4V

このようにみると、言語の領域における情操陶冶の問題は、童話によって情操を培っていくことが比較的多くみられるけれども、前に述べたように、言語要素・言語活動自身の扱いの中にも情操陶冶と結びつきがあることを忘れてはならないであろう。